

特殊エポキシ樹脂錆止め塗料

無鉛

遮熱サビ止めプライマー

JIS K 5970



日塗検

JP0308004

建物用床塗料 中塗り・下塗り

F★★★★★

遮熱効果を付与した 金属用錆止めプライマー

防錆力が高く、かつ、安全性を持つ防錆顔料を配合した遮熱サビ止めプライマーは、
強靱で、付着性に優れています。

さらに、塗膜に遮熱効果を付与したことで、従来にない遮熱性が得られます。

【特長】

1.環境を配慮した防錆塗料です。

環境を意識し、より安全性の高い防錆顔料を使用しています。

2.遮熱性を有しています。

遮熱サビ止めプライマーの塗膜が遮熱性を有しているため、遮熱塗料との
組合せでさらに遮熱効果が得られます。

3.付着性に優れています。

特殊エポキシ樹脂の配合により、金属部への付着性に優れています。

【用途】

- 1.各金属部への錆止め用下塗り材
- 2.遮熱塗料の下塗り材

【上塗適性】

・フローン床材、フローン防水材、当社屋根用塗料等、各製品については、当社に御相談ください。

【製品仕様】

●容量・配合比

品名	容量			配合比 (重量比)	
	A液	B液	セット	A液	B液
遮熱サビ止め プライマー	15kg	3kg	18kg	5	1
	5kg	1kg	6kg		
ソルエポ シンナー	—	—	4L	—	—
	—	—	16L		

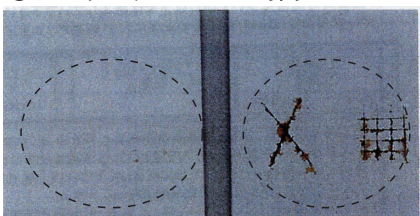
●一般物性

試験項目	試験結果	試験条件
外観 A液 B液	グレー色粘稠液 褐色粘稠液	
色相	グレー色(N-75相当色)	
混合粘度	1000mPa・s	23℃
可使時間	6時間	23℃
希釈割合	0～10%	ソルエポシンナー

上塗可能時間、可使時間は季節・商品によって変わります。
(詳しくは裏面をご覧ください)

【防錆効果】

●ソルトスプレー 500時間



下塗材	遮熱サビ止めプライマー	エポキシ系錆止め塗料
上塗材	2液型ウレタン樹脂塗料	

【遮熱効果】

下塗材	上塗材	表面温度	温度差
遮熱サビ止めプライマー	スーパートップ 遮熱	52.0℃	-16.8℃
2液エポキシ錆止め塗料	アクリルウレタン樹脂屋根用塗料	68.8℃	—

試験結果は、弊社における試験に基づくもので、保証値ではありません。

上塗可能時間

温度	5℃	23℃	30℃	40℃
可使用時間	10時間	6時間	5時間	3時間
最小塗装間隔	24時間	6時間	5時間	4時間

↑温度による可使用時間と最小塗装間隔の比較

施工時の気温により、遮熱サビ止めプライマーは可使用時間と最小塗装間隔が変動します。
また、商品によって最大塗装間隔が変わりますのでご注意ください。
(最大塗装間隔は施工時の温度によっては左右されません)

→弊社商品による最大塗装間隔の比較

商品	実曝テスト		最大塗装間隔
	2日	7日	
スーパートップ遮熱	○	○	7日
シリコンクール	○	×	2日
ハイフロー	○	×	2日
ソルエポ90	○	○	7日
AUコート	○	○	7日
パワフルフロアーII	○	○	7日
フローンアクアエポ	○	○	7日
水性フロアー	○	×	2日
フローン55・50	○	○	7日
フローンフルトップ	○	○	7日
フローン22	○	○	7日
フローン11	○	○	7日
フローン01	○	○	7日

○→密着 ×→密着せず

付着性

金属素地	付着性	金属素地	付着性
鋼板	○	トタン	○
黒皮	○	カラータン	○
ステンレス	○	ボンデ鋼板	○
電気亜鉛メッキ	○	ブリキ	○
溶融亜鉛メッキ	○	アルミ	○

下地塗料	付着性	下地塗料	付着性
フタル酸樹脂塗料	○	パワフルフロアーII	○
フタル酸錆止め塗料	○	フローン55	○
ハイフロー	○	フローンアクアエポ	○
ソルエポ90	○		
AUコート	○		

標準工法

工程	材料名	使用量 kg/m ²	上塗可能時間 (23℃)	備考
1	素地調整	——	——	必ず2種ケレン以上を実施して下さい。(3種、4種ケレンでは不十分です) (下記、ケレンの状態、方法は素地調整の項目をご参照ください)
2	遮熱サビ止めプライマー ソルエポシンナー	0.16 0~0.02	6時間~7日間	A液:B液=5:1(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、必要に応じてソルエポシンナーにて0~10%希釈し、ハケ、中毛ローラーにて塗布。
3	スーパートップ遮熱 トップ14シンナー	0.15 0.02~0.03	4~48時間	A液:B液=1:2(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、トップ14シンナーで10~20%希釈し、中毛ローラーにて塗布。
4	スーパートップ遮熱 トップ14シンナー	0.15 0.02~0.03	——	A液:B液=1:2(重量比)の割合で計量、混合、電動攪拌機で攪拌後、トップ14シンナーで10~20%希釈し、中毛ローラーにて塗布。

*遮熱サビ止めプライマーの上塗可能時間を経過した場合には、目荒らしを行って下さい。
*遮熱サビ止めプライマーは、0.16kg/m²使用で平均膜厚50μmです。

素地調整

素地調整の程度	既存塗膜の状態	素地調整後の素地状態	工具および工法	SSPC規格
1種ケレン	とくに腐食の著しい状態	塗膜、錆を完全に除去し、ピカピカした金属面とする。	ブラスト法	SSPC-SP5 SSPC-SP10
2種ケレン	塗膜が劣化し、腐食のはなはだしい状態	塗膜及び錆を除去し、鉄肌をあらわす。活膜が存在する場合は、残す。	ディスクサンダーなど動力工具とワイヤーブラシなど手工具の併用	SSPC-SP3
3種ケレン	塗膜の殆どが活膜で部分的に損傷や発錆が見られる状態	全面に工具をあて劣化塗膜を除去し、発錆部は錆を落とし鉄肌をあらわす。	(同上)	SSPC-SP2
4種ケレン	活膜であって変色・白亜化・付着物が多い状態	粉化物および汚れを除去し清浄にする。	ワイヤーブラシやサンドペーパーなどの手工具	——

SSPC 表面処理規格(アメリカ)

施工上の注意事項

- 下地は、砂、ゴミ、ホコリ等を完全に取り除き、十分に乾燥させておくことが必要です。
- 遮熱サビ止めプライマーは、2液の反応型塗料ですので、配合比は**A液:B液=5:1**(重量比)で計量し、電動攪拌機で充分攪拌したのち使用して下さい。
- A液とB液の混合と同時に反応が進み、次第に粘度が上昇しゲル化しますので、使用可能時間(ポットライフ)内に使い切るようにして下さい。使用可能時間(ポットライフ)は**6時間**(23℃)です。施工時の温度、施工面積、作業人数等を考慮して、無駄のないように材料の配合をして下さい。
- 希釈が必要な場合には、**ソルエポシンナー**で**0~10%**希釈してご使用下さい。
- 遮熱サビ止めプライマーは溶剤型塗料ですので、火気と換気には充分注意して下さい。
- 高湿度の場合や結露など水分の影響で白化することがあります。そのまま上塗りを塗り重ねると層間の付着性が悪くなります。ペーパー掛け、シンナー拭きで白化した層を除去して下さい。
- 気温5℃以下、湿度80%以上では施工しないで下さい。硬化時間、硬化後の性能は、施工時の温度に大きく影響されます。

10℃以下 硬化後退	15℃~25℃ 最適	30℃以上 硬化短縮
---------------	---------------	---------------

- 施工時には引火、爆発、中毒等の事故防止のため、充分な換気をし、有機ガス用防毒マスク、保護メガネ、手袋等、保護具を着用して下さい。発火原因となる電気溶接、ガス溶断との並行作業は避けて下さい。
- 直接皮膚に触れないように十分に注意して下さい。もし触れた場合、ウエス等で十分に拭き取り、中性洗剤で洗って下さい。
- 材料の保管、取り扱いについては、消防法、労働安全衛生法、その他に基づき充分な管理をお願いします。
- 動植物に影響を及ぼす可能性がありますので、施工時および施工後の換気を充分に行って下さい。

*取り扱い上の注意については、容器に表示された注意事項をご参照下さい。
*詳細な内容が必要な場合には、製品安全シート(MSDS)をご参照下さい。

●お問い合わせは……

東日本塗料株式会社



本社/〒124-0006 東京都葛飾区堀切3-25-18 TEL.03(3693)0851(代) FAX.03(3697)2306
埼玉工場/〒347-0017 埼玉県加須市南篠崎1-13 TEL.0480(65)1515(代) FAX.0480(65)1518
仙台営業所/〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野1-4-20 TEL.022(291)7372(代) FAX.022(291)7320
新潟営業所/〒950-0871 新潟市東区山木戸3-7-9 TEL.025(273)5749(代) FAX.025(274)6730
静岡営業所/〒422-8037 静岡市駿河区下島128-1 TEL.054(238)8061(代) FAX.054(238)8063
北海道出張所 TEL.090(8586)2214 FAX.03(3697)2306



*製品改良のため、予告なく仕様、性能、カタログ内容を変更する場合があります。
*諸官公庁等の特記仕様がある場合には、それを最優先して下さい。

URL <http://www.hnt-net.co.jp>

CATALOG NO.26 '15.11.5000